

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第5部門第2区分

【発行日】平成30年5月24日(2018.5.24)

【公開番号】特開2016-217446(P2016-217446A)

【公開日】平成28年12月22日(2016.12.22)

【年通号数】公開・登録公報2016-069

【出願番号】特願2015-102485(P2015-102485)

【国際特許分類】

F 16 H 45/02 (2006.01)

【F I】

F 16 H	45/02	X
F 16 H	45/02	Y

【手続補正書】

【提出日】平成30年4月6日(2018.4.6)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

しかし、摩擦面の変形を確実に抑えるためには、剛性の高い部材が必要になり、重量が重くなるだけではなく、軸方向の寸法も長くなる。また、トルクコンバータの内部圧力の上昇は、フロントカバーの主に内周部が膨らむような変形を招く。このような変形は、摩擦面に摺動部材を固定しただけでは、抑えることは困難である。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0021

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0021】

(6) 好ましくは、このロックアップ装置は、環状の支持用ボスと、円板状の油室プレートと、をさらに備えている。支持用ボスは、フロントカバーの内周部にタービン側に突出して固定されるとともに、外周面にピストンが軸方向に摺動可能に支持されている。油室プレートは、支持用ボスの外周面に、フロントカバーとの間にピストンを挟むように固定され、ピストンとの間にロックアップ用油室を構成する。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0024

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0024】

ここでは、フロントカバーに入力されたトルクは、支持用ボスから油室プレートのトルク伝達部を介してプレッシャープレートに伝達され、さらにプレッシャープレートからクラッチディスクを介してダンパ機構に伝達される。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0026

【補正方法】変更

【補正の内容】**【0026】**

(9) 好ましくは、ロックアップ解除時にロックアップ用油室に発生する油圧をキャンセルするためのキャンセル用油室が形成されている。そして、支持用ボスには、ロックアップ用油室及びキャンセル用油室のそれぞれに連通する油路が形成されている。

【手続補正5】**【補正対象書類名】明細書****【補正対象項目名】0059****【補正方法】変更****【補正の内容】****【0059】**

なお、支持用ボス40のタービン4側の端面とタービンハブ16との間には、スラストワッシャ46が配置されている。スラストワッシャ46の表面には、径方向に貫通する溝が形成されている。

【手続補正6】**【補正対象書類名】明細書****【補正対象項目名】0078****【補正方法】変更****【補正の内容】****【0078】**

円板部61aの内周端面は、タービン4側に折り曲げられて、位置決め部61dとなっている。この位置決め部61dが、タービンハブ16の外周端部に形成されたダンパ支持部16cによって、支持され、径方向及び軸方向に位置決めされている。円板部61aの外周部には、軸方向に貫通する孔61eが形成されている。この孔61eを、係合部材60の第2係合部60cが貫通し、タービン4側に延びている。

【手続補正7】**【補正対象書類名】明細書****【補正対象項目名】0093****【補正方法】変更****【補正の内容】****【0093】**

- 2 フロントカバー
- 2 b 摩擦面
- 4 タービン
- 2 8 クラッチディスク
- 2 9 プレッシャープレート
- 2 9 a 溝
- 3 0 ピストン
- 3 0 a 受圧部
- 3 0 e 開口
- 3 0 f 押圧部
- 3 4 ダンパ機構
- 3 6 コアプレート
- 3 7 摩擦部材
- 4 0 支持用ボス
- 4 1 カバープレート(油室プレート)
- 4 1 c 係合突起(トルク伝達部)
- C 1 ロックアップ用油室
- C 2 キャンセル用油室
- P 1 第1油路

P 2 第 2 油 路

P 3 第 3 油 路